

## トピックス①：東京 2020 オリンピック・パラリンピック聖火リレー

新型コロナウイルス感染症の世界的感染拡大により東京 2020 大会の 1 年延期、さらに感染状況の悪化に伴う直前の計画変更等乗り越え、本県でもオリンピック・パラリンピック聖火リレーが行われました。

### 1 東京 2020 オリンピック聖火リレー

#### (1) 1 日目 (6 月 10 日)：点火セレモニー



本県のオリンピック聖火リレーについては、1 日目は弘前市を出発後、津軽地域 6 市町村を經由し、青森市で 1 日目のセレブレーションを実施し、2 日目はむつ市を出発後、県南地域 4 市町を經由し、八戸市で 2 日目のセレブレーションを実施し、聖火ランナーがリレーによりつないでいく計画でした。しかし、新型コロナウイルス感染症の感

染状況の悪化が続いたこと等から、1 日目の全区間、2 日目のむつ市及び三沢市区間については、公道での聖火リレーを取り止め、青森市の青い海公園で点火セレモニーを実施することとなりました。

点火セレモニーでは、公道における聖火リレーが中止となった聖火ランナー予定者の方々に参加いただき、会場内で聖火リレートーチを持つての走行とセレモニーを行いました。



#### (2) 2 日目 (6 月 11 日)：公道での聖火リレー



十和田市からスタートした 2 日目は、おいらせ町、階上町、十和田湖をリレーでつないで、最終地点である八戸市でセレブレーションが行われました。

2 日間を通じて公道での聖火リレーを計画どおり実施することは

できませんでしたが、本県が世界に誇る十和田湖などの美しく雄大な自然や、県内各地に息づく歴史・伝統・文化、東日本大震災で特に被害が大きかった被災自治体並びに県民が復興に向かって努力する姿等、広く国内外に発信することができ、無事に北海道へ聖火をつなぐことができました。



## 2 東京 2020 パラリンピック聖火リレー

### (1) 概要

パラリンピック聖火リレーは、「①聖火フェスティバル」「②集火式（東京）」「③開催都市内聖火リレー（東京）」で構成されており、本県ではこのうち、「①聖火フェスティバル」を実施しました。

聖火フェスティバルでは、聖火のもととなる火を生み出し（採火）、東京へ火を送り出す（出立）一連のイベントを実施しましたが、新型コロナウイルス感染症の感染状況の悪化に伴い、開催直前に無観客とし、関係者のみで開催することとなりました。

### (2) 1日目（8月15日）：採火、集火

県内7市町（弘前市、八戸市、十和田市、三沢市、平内町、中泊町、野辺地町）において、共生社会の実現に向けた想いを込めて、各市町で特色ある手法により採火が行われました。

採火された火は、7月に世界文化遺産登録が決定した三内丸山遺跡に運ばれて1つに集火され、ここで、東京 2020 パラリンピック聖火（青森県の火）が誕生しました。

### (3) 2日目（8月16日）：聖火ビジット、出立

出立の前には、採火又は集火した聖火がランタンに灯され各地を訪問する「聖火ビジット」を県内11市町で実施しました（一部は1日目に実施）。

そして、三内丸山遺跡で誕生した東京 2020 パラリンピック聖火（青森県の火）は、三沢市南山屋外運動場で出立式を開催し、東京へ送り出されました。

各都道府県から送り出された47の聖火とイギリスのストーク・マンデビルで採火された聖火は、東京で一つになり、誕生した「東京 2020 パラリンピック聖火」は、皆が調和し活かし合う共生社会を照らし輝く光として、東京での聖火リレーへとつなげられました。

